

みやぎの

12月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.214 2024.12

紹介内容 (11/1~11/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 大河原農改：地域農業の将来像「地域計画」策定への取組を支援
 - 登 米農改：米川地区担い手法人設立に向けた先進地視察研修が行われました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 1
 - 仙 台農改：全国の4Hクラブ員による視察研修が行われました
 - 気仙沼農改：こんにやく講習会が開催されました
 - 美 里農改：「第54回東北農村青年会議宮城大会・令和6年度全国農業青年交換大会 in みやぎ」に美里4Hクラブ員が参加しました！
 - 登 米農改：第54回東北農村青年会議宮城大会・令和6年度全国農業青年交換大会 in みやぎが開催されました
 - 気仙沼農改：農作業安全研修会を開催しました
 - 仙 台農改：みやぎ農業未来塾・営農基礎講座を開催しました！
 - 亘 理農改：みやぎ農業未来塾「農業知識向上講座」を開催しました
 - 亘 理農改：下余田Ⅱ期地区担い手部会の視察研修が開催されました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 4
 - 亘 理農改：亘理名取果樹振興協議会若手りんご生産者福島視察研修を実施しました
 - 石 巻農改：東松島市で直播たまねぎ現地検討会を開催！
 - 仙 台農改：JA新みやぎあさひなりんご部会の第3回現地検討会が開催されました
 - 大河原農改：村田町の女性農業者2人が切り花ハボタン生産に挑戦！
 - 登 米農改：登米市内で収穫したりんごを味わってみてください！
 - 栗 原農改：JA栗っこ花苗部会秋季ほ場巡回が開催されました
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツ収穫・出荷調製作業研修会を行いました
 - 石 巻農改：シーズン到来！河北せり現地検討会開催！
 - 石 巻農改：令和6年度復興感謝 第4回東松島市産業祭農林産物品評会が開催されました
 - 登 米農改：JAみやぎ登米花卉部会キンギョソウ専門部が現地検討会を開催！
 - 亘 理農改：山元町りんご組合相互視察検討会が開催されました
 - 大河原農改：若手果樹生産者の共同出店活動～白石市農業祭 in ホワイトキューブ～
 - 石 巻農改：GI産品とうまいものフェアに河北セリが出店！
 - 登 米農改：JAみやぎ登米寒じめ野菜部会現地検討会が開催されました！
 - 石 巻農改：出荷間近！いちご現地検討会開催！
 - 石 巻農改：石巻地域加工用ばれいしょ実績検討会を開催！
 - 登 米農改：枝もの用クロマツ収穫・調整作業研修会が開催されました

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 登 米農改：大豆ほ場巡回指導会が開催されました
 - 石 巻農改：大豆現地検討会（収穫前）が開催されました！

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 仙 台農改：第2回JA新みやぎあさひなまつりが開催されました
 - 亘 理農改：岩沼市の農事組合法人玉浦南部生産組合で復興支援感謝祭が開催されました
 - 大河原農改：農業講座「花苗寄せ植え体験」を開催しました
 - 亘 理農改：「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が開催されました
 - 農業振興課：令和6年度宮城県農林産物品評会（うるち玄米）を開催しました
 - 大河原農改：農業講座「落ち葉を使った腐葉土作り」を開催しました
 - 気仙沼農改：宮城県花き品評会及び宮城県農林産物品評会に入賞しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○地域農業の将来像「地域計画」策定への取組を支援

令和6年11月19日
大河原農業改良普及センター



大河原管内では地域計画（地域農業経営基盤強化促進計画）の策定に向け、各地区での検討会が開催されています。地域計画は農業経営基盤強化促進法に基づき、地域の農地を次世代に引き継ぐため、将来の担い手と担い手が担うべき農地を明確にした目標地図を示した計画で、大河原管内（2市7町）では49地区の地域計画が令和6年度中に策定される予定です。

そのうち柴田町では10地区において地域計画の策定が進んでおり、10月～11月に2回目の検討会が各地区で開催されています。その中の「船迫・小成田地区」では、1回目の検討会で町が提示した目標地図を基に意見を出し合い、新たな担い手の追加や地域計画の区域拡大等について検討しました。今回の検討結果を踏まえ、修正した地域計画と目標地図は地区の代表たちが確認した後、今年度末までに町の公告縦覧を経て策定される予定です。

普及センターでは、地域の担い手の育成や経営の安定化に向け、引き続き地域計画づくりを支援していきます。

○米川地区担い手法人設立に向けた先進地視察研修が行われました

令和6年11月27日
登米農業改良普及センター



登米市東和町の米川地区は、令和6年9月に事業採択された農地整備事業地区であり、事業目標年度である令和16年度に向けて、担い手1法人に農地を集積・集約化し、整備農地の一部に、新たに高収益作物

物を作付けする計画としています。

これまで担い手法人設立に向けた発起人会で法人の営農形態等を検討してきましたが、この度、具体的な法人経営を学ぶため、令和6年11月13日（水）に、栗原市若柳の「農事組合法人やつきファーム」と登米市米山の「株式会社たいら」を視察しました。当日は、関係機関を含めて8人が参加し、各法人の設立経過や新規品目導入の際の工夫、農地集約のメリット、農業経営基盤強化準備金を活用した農業機械類の導入など、広範な研修内容となりました。今後は、この視察研修で得られた情報を参考として法人設立に向けた発起人会での検討を進めていくこととしています。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、米川地区担い手法人の設立に向けて支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○全国の4Hクラブ員による視察研修が行われました

令和6年11月6日
仙台農業改良普及センター



10月30日と31日の2日間にかけて、全国の4Hクラブ員を参集した「第54回東北農村青年会議宮城大会・令和6年度全国農業青年交換大会 in みやぎ」が開催されました。

1日目は電力ホール（仙台市）でプロジェクト発表や意見発表が、2日目は県内各地4コースに分かれて視察研修が行われ、仙台管内ではJRフルーツパーク仙台あらはまを会場として視察が行われました。

当視察コースでは、北は青森県、南は長崎県といった遠方の方も含めて、全国27名の4Hクラブ員が参加しました。JRフルーツパークでは、りんごほ場を中心に視察し、スタッフから、東日本大震災後の荒浜地区の復興の経過や、ほ場を整備するまでの苦労だけでなく、果樹のジョイント仕立てなどの栽培技術に関する最新情報も含めて、幅広い説明がありました。

参加者の中には、自身でりんごや梨を栽培している果樹農家もおり、スタッフからの説明を熱心にメモを取りながら聞いている姿もありました。

今回のイベントがきっかけとなり、全国の若手農業者と県内農業者の交流が深まり、今後も継続されることを期待します。

○こんにゃく講習会が開催されました
令和6年11月8日
気仙沼農業改良普及センター



気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会では、グループ員から「こんにゃく芋からこんにゃくを作りたい」という声を受けて、令和6年11月1日、こんにゃく講習会が開催されました。

講習会の前日に役員が集まり、芋の皮をむいて準備して当日に備えました。講習会では、昔、普及センターから教わったというレシピをもとに調理が行われましたが、こんにゃくを作った経験のある方からは「自分はこうして作っている」といった情報交換も活発に行われている様子でした。

完成したこんにゃくは、刺身こんにゃくでいただき、食事をしながら賑やかに交流されていました。

普及センターでは、今後も本協議会や女性農業者の活動を支援していきます。

○「第54回東北農村青年会議宮城大会・令和6年度全国農業青年交換大会 in みやぎ」に美里4Hクラブ員が参加しました！

令和6年11月19日
美里農業改良普及センター



令和6年10月30日から31日に、宮城県内で「第54回東北農村青年会議宮城大会・令和6年度全国農業青年交換大会 in みやぎ」が開催され、美里4Hクラブ員が参加しました。

1日目の意見発表の部では、当クラブの阿部奏斗氏が宮城県代表として出場し、最優秀賞（東北農政局長賞）を受賞しました。また、令和7年3月に東京都で開催される全国大会（第63回全国青年農業者会議）に東北代表として出場することが決定しました。

2日目は、県内各地4コースに分かれて視察研修が行われました。当クラブ員は、県南内陸及び県北内陸のコースに参加し、全国の若手農業者との交流を深めました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携しながら、各種研修会等の開催を通して青年農業者の育成を実施していきます。

○第54回東北農村青年会議宮城大会・令和6年度全国農業青年交換大会 in みやぎが開催されました

令和6年11月22日
登米農業改良普及センター



10月30日～31日にかけて、第54回東北農村青年会議宮城大会・令和6年度全国農業青年交換大会 in みやぎが開催されました。本大会は東北の農業青年が一堂に会し、日頃の農業経営や農村生活で得た知識、技術並びにプロジェクト活動の成果を相互に交換し、農業の意欲ある担い手として経営のレベルアップを図るとともに、次世代の青年農業者の確保・育成について考え、将来の農業の発展を目指すことを目的として開催されています。今回は全国農業青年交換大会も合同開催となり、全国のクラブ員も参加して特に盛大に開催されました。

また、2日目には、県内各地の農業関係団体の視察（4コース）が行われました。登米管内では株式会社日高見牧場を訪れており、参加者からは積極的に質問が飛び交う活発な意見交換が行われました。登米4Hクラブからは3名が実行委員として参加し、現会長である柳渕泰孝氏は大会実行委員長を、庄司力氏が大会事務局長を務めました。さらに、大立目拓也氏が畜産経営部門のプロジェクト発表を行い、見事全国大会に派遣されることとなりました！

当普及センターは今後も登米市4Hクラブの活動を支援してまいります。

○農作業安全研修会を開催しました

令和6年11月28日
気仙沼農業改良普及センター



身近な農業機械である刈払機の基本操作とメンテナンスをテーマに農作業安全研修会を令和6年11月20日に開催しました。

講義では、やまびこジャパン株式会社様から、刈払機の「安全読本」を基に、正しい使い方を一つ一つ丁寧に説明していただきました。その後、会場を外に移し、実際に機械を動かして操作やメンテナンスについて質疑応答が行われました。特に若手農業者からはメンテナンスに関する質問が多く出され、使いたいときに使えないといった不満や疑問の解消に繋がった様子でした。

普及センターでは、今後も多様な担い手の確保・育成に取り組んでいきます。

○みやぎ農業未来塾・営農基礎講座を開催しました！

令和6年11月28日

仙台農業改良普及センター



11月18日(月)に、当普及センターで「みやぎ農業未来塾 営農基礎講座」を開催し、仙台農業士会の会員も含め、総勢25名の農業者・就農希望者等が参加しました。

今回は「流通の基礎・販売の工夫から学ぶ販路の開拓」をテーマに、新規就農者等を対象に、今後の販売戦略を考える参考としていただくため、2名の講師をお招きし、ご講演いただきました。

はじめに、県園芸推進課の渡邊智弘園芸流通ビジネス相談員から、「流通の基本・卸売市場の機能について」という題目で、流通に関する現状や卸売市場の機能など、流通全般に関する基礎的な知識についてご講演をいただきました。

次に、宮城県農業士会の佐藤敏充会長から、「顧客ニーズと販売戦略について」という題目で、長年花壇用苗の生産を行う中で培ってきた”売れるための工夫”などについて、事例も交えてご講演いただきました。

また講演後には、営農・就農準備の中で抱えている不安や課題の共有、他の農業者が実践する販売方法等について学んでいただくため、仙台農業士会の会員の皆様にもご協力いただき、グループワーク形式で意見交換を行い、農業者間の交流を図りました。

参加した農業者からは「栽培管理以外にやるべき課題が見えた」、「先輩農家の話を聞き、就農に向けて不安より楽しみが増えた」といった感想が聞かれました。

普及センターでは、今後も積極的に農業者同士の交流を進め、新規就農者の経営の安定化に向けて支援していきます。

○みやぎ農業未来塾「農業知識向上講座」を開催しました

令和6年11月28日

亘理農業改良普及センター



令和6年11月25日(月)亘理普及センターを会場として、「みやぎ農業未来塾【農業知識向上講座】」を開催しました。本講座は亘理名取地区農業士会と共催し、経営及び雇用に関する基礎知識の講演、農業士と新規就農者の意見交換を実施したもので、新規就農者及び農業士13人が参加しました。

講演では、中小企業診断士・社会保険労務士である鈴木大輔先生から、農業経営分析入門及び雇用に関する基礎知識について話をさせていただきました。参加者は真剣にメモをとりながら聴講していました。

意見交換では、新規就農者が抱える悩みについて、農業士からアドバイスをいただきました。意見交換後には、参加者同士で連絡先を交換をする等の交流が見られました。

全体を通して参加者からは、「特に労災保険についての話は、新たな気づきがあった。」、「他の新規就農者の営農の様子を聞くことができて参考になった。」等の感想が寄せられました。

普及センターでは、今後も担い手の確保及び育成の支援に努めてまいります。

○下余田Ⅱ期地区担い手部会の視察研修が開催されました

令和6年11月28日

亘理農業改良普及センター



名取市下余田Ⅱ期地区は、農地整備事業を契機に担い手への農地集積や高収益作物の導入を行うこととしており、今年の8月に担い手部会が設立され、地域の話し合いが進められています。

11月13日(水)には、先進地視察研修として、栗原市の農事組合法人iファームと美里町の農事組合法人中塚ファーム育みの代表から、それぞれ法人設立の経緯や地域の合意形成の方法などについて説明を受け、乾燥調製施設の見学も行いました。

参加者は、施設内の機械や活用事業などについて質問し、自分達のイメージを深めた様子でした。また、帰りのバスでも今後の部会活動について話し合いが行われるなど、大変参考になった視察研修でした。

普及センターでは、今後も担い手育成に向けた支援を続けてまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○亙理名取果樹振興協議会若手りんご生産者福島視察研修を実施しました

令和6年11月1日

亙理農業改良普及センター



令和6年10月24日に亙理名取果樹振興協議会の若手りんご生産者を対象にりんご栽培技術や果樹経営を学び若手同士の技術交流を目的に、視察研修を実施し、6人の参加がありました。

1か所目の視察先である福島県農業総合センター果樹研究所では、りんご栽培担当研究員から、高温の影響、福島県育成品種、着色系ふじの品種特性などについて御講話をいただき、ほ場で着色状況等果実品質が確認でき品種選定の参考になっていました。

2か所目の株式会社菱沼農園では、代表取締役に施設やほ場を御案内いただき、もも、りんご、おうとう、ぶどうを組み合わせた果樹複合経営、出荷調整、加工、販売、従業員の労務管理、りんごの高密度植栽培、有望な品種などについて御講話をいただきました。

管内の若手りんご生産者は日ごろから技術研鑽に熱心で自主的に技術交流を行っており、今回も時間いっぱい積極的に質問していました。

普及センターでは、今後も技術交流を通じて若手りんご生産者の育成支援を行ってまいります。

○東松島市で直播たまねぎ現地検討会を開催！

令和6年11月6日

石巻農業改良普及センター



令和6年10月21日に、直播たまねぎに取り組んでいる農業法人のほ場を会場に、JAいしのまき主催による直播たまねぎ現地検討会が開催されました。直播たまねぎに取り組む東松島市内3法人のほか、JAいしのまき園芸課や東松島営農センターや全農みやぎ、機械メーカー等が出席しました。

現地検討会では、播種から半月ほど経過したほ場を確認し、発芽状況を検討しました。直播たまねぎは、「苗立ち率」の良否が直接収穫量に影響すると言われていますが、昨年に比べると発芽良好でした。

現地ほ場確認後は、東松島営農センターを会場に「栽培研修会」が行われ、全農みやぎから雑草や病害虫防除などの講義のほか、機械導入について意見が交わされました。当所からは、農機導入に利用できる補助事業や作付け推進に向けたアドバイス等を行いました。

普及センターではJAいしのまきと連携して、直播たまねぎの安定生産を推進していきます。

○JA新みやぎあさひなりんご部会の第3回現地検討会が開催されました

令和6年11月6日

仙台農業改良普及センター



JA新みやぎあさひなりんご部会の今年3回目となる現地検討会が10月22日に開催されました。

晩生種の収穫が間もなく始まることから、収穫のタイミングについて確認し合いました。収穫は、これまでの秋の高温の影響か、着色が進んでおらず、平年より遅くなるとの推察となりました。品質管理については、りんごのサビ果を軽減するため、カルシウム剤の散布を実践した園地では、今までにないきれいなりんごが収穫でき、生産者は自信を深めていました。生物農薬を活用してダニ類を防除している生産者もあり、今年の防除について盛んに情報交換を行いました。

これから本産地のメイン品種である、晩生の美味しい品種（「ふじ」等）が収穫される時期を迎え、生産者も忙しくなります。普及センターでは来年の防除作業や品質向上に関する情報提供や技術指導を行い、美味しいりんごの安定生産を支援してまいります。

○村田町の女性農業者2人が切り花ハボタン生産に挑戦!

令和6年11月7日

大河原農業改良普及センター



県では園芸振興を進めるため、農業・園芸総合研究所で様々な試験研究課題に取り組んでいます。その中の「パイプハウスを有効活用した切り花ハボタンの無加温栽培」については宮城県の「普及に移す技術」に掲載され、技術の普及を積極的に図っています。

切り花ハボタンの現地試験として村田町内の2人の女性農業者が、初めてハボタン栽培に取り組んでおり、定期的に研究所と普及センターの担当者がほ場を巡回して栽培技術指導を行っています。

今年8月下旬に苗を定植し、直後は残暑が厳しくかん水管理等に苦労しましたが、その後は順調に生育し、2ヶ月が経過した頃のほ場巡回では、早いほ場で赤や白の発色が確認できるようになりました。

生産されたハボタンは11月下旬から年末にかけて道の駅「村田」などの直売所に出荷する予定です。

○登米市内で収穫したりんごを味わってください!

令和6年11月15日

登米農業改良普及センター



登米市は県内でも特にりんごの生産が盛んな地域で、9月上旬から早生品種の収穫が始まり、次々と多様な品種が収穫されています。今年は果実の肥大も順調で、生産者の努力の成果により甘くて美味しい完熟りんごが出荷されています。

さらに、登米地域では若手生産者を中心に、先進的な技術である「りんご樹体ジョイント栽培」の導入が進んでいます。ジョイント栽培は、接ぎ木の技術を活用して複数の樹を直線的に連結する方法で、従来の仕立て方法に比べて早期成園化や作業の省力化が期待できる技術です。登米地域では平成29年に初めて導入され、その後も年々導入面積が拡大しています。

平成29年に導入された園地では、写真の通り順調に生育が進んでいます。

登米市で生産されたりんごは、市内の直売所や生産者の庭先販売所で購入可能です。ぜひ一度、登米市産りんごの美味しさをお試しく下さい。

○JA栗っこ花苗部会秋季ほ場巡回が開催されました

令和6年11月15日

栗原農業改良普及センター



令和6年9月27日(金)にJA新みやぎ栗っこ花苗部会による栽培技術の向上などを目的とした秋季ほ場巡回が栗原市若柳地区で開催され、部会員7人が参加しました。

当日は市場の担当者とともに部会員のほ場5か所を巡回しました。今回の巡回では、パンジー、ピオラ等の花壇苗の生育状況の確認が行われ、栽培技術等について活発な意見交換がなされました。いずれのほ場の花壇苗も生育は順調で、播種時期が早かった作型では出荷適期を迎えているものもありました。

JA新みやぎ栗っこ花苗部会では、今後も引き続き栽培講習会などを通じて栽培技術を向上させ、高品質な花壇苗の生産に取り組んでいく予定です。

○枝もの用クロマツ収穫・出荷調製作業研修会を行いました

令和6年11月19日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年11月6日、南三陸町で県主催による枝もの用クロマツ収穫・出荷調製作業研修会を開催しました。

研修会には、宮城県クロマツ研究会員12人、県関係者10人の合計22人が参加しました。

南三陸町で枝もの用クロマツの生産に取り組んでいる株式会社南三陸 Pine Proの後藤代表取締役が講師となり、収穫したクロマツの出荷調製作業の手順や出荷規格について説明をいただいた後、意見交換

を行いました。

令和3年度から枝もの用クロマツを出荷してきた南三陸 Pine Pro では、作業効率を上げるため出荷調製作業を毎年見直し、更に出荷規格を細かくすることで商品化率を上げる工夫を行っており、参加者からは「そんなに手間をかけているの」、「自分たちでできるかな」など様々な感想がありました。

また、意見交換では播種後の管理方法や雑草防除など栽培管理についての意見交換があり、有意義な研修会となりました。

当日は、残念ながら雨が降り、実際の収穫作業を見学することはできませんでしたが、見学希望者は後藤代表取締役と連絡を取りながら後日個別に見学することとなりました。

普及センターではクロマツの出荷が終わるまで適宜巡回しながら支援していきます。

○シーズン到来！河北せり現地検討会開催！

令和6年11月20日

石巻農業改良普及センター



令和6年11月8日に河北せり振興協議会主催による現地検討会が開催されました。

現地検討会は、この時期に出荷されている冬せりの各ほ場を巡回し、栽培管理や病虫害防除等について生産者相互に検討を行うもので、協議会会員やJAの営農指導員、市場関係者など約20名が参加しました。

今年は昨年のように夏の高温障害を受けることなく、せりは順調に生育・出荷されており、12月の最盛期に向け、今後出荷量が増えていく見込みです。

普及センターでは今後も良品なせりの安定生産を支援していきます。

○令和6年度復興感謝 第4回東松島市産業祭農林産物品評会が開催されました

令和6年11月20日

石巻農業改良普及センター



令和6年11月3日（日）に、東松島矢本東市民センターにおいて、第4回東松島市産業祭「農産物展示品評会」が開催されました。

今年の夏も昨年同様の猛暑ではありましたが、果菜類、根菜類、葉物類など26品目、51人の生産者から選りすぐりの69点が出展されました。

そのうち、ねぎ、きゅうり、じゃがいもなど、東松島市の主要な園芸作物を中心に、金賞10点、銀賞10点、特別賞3点が授与されました。

農家の皆さんは、今年も夏の暑さにより、栽培管理や病虫害防除に大変苦勞されたと思われませんが、受賞された出品物は、いずれも品目特有の大きさ、形、色など高品質なものであり、生産者の日頃からの研鑽が感じられる品評会となりました。

受賞された皆さん、おめでとうございます。

普及センターでは、今後も気象変動にも負けない農産物の安定生産に向けて支援してまいります。

○JAみやぎ登米花卉部会キンギョソウ専門部が現地検討会を開催！

令和6年11月22日

登米農業改良普及センター



令和6年10月25日に、これからのキンギョソウの出荷に向けて、JAみやぎ登米花卉部会キンギョソウ専門部の現地検討会が開かれ、生産者6人が参加しました。

年末に向け、栽培、収穫中のハウスを巡回し、品種特性や栽培する際の注意点について、実物を確認しながら情報交換を行いました。

普及センターからは、害虫防除を行う際の農薬の紹介や農薬の適正使用について情報提供しました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

○山元町りんご組合相互視察検討会が開催されました

令和6年11月22日

亘理農業改良普及センター



山元町りんご組合は、山元町の山沿いを南北に走るアップルライン付近でりんごを栽培している生産者の組織です。令和6年11月13日、主力品種の「ふじ」を収穫する前に、組合員同士のほ場を相互に視察し、品質の高いりんごを出荷する目的で、相互視察検討会が開催されました。

当日は5人が参加し、3か所のほ場で相互視察検討が行われ、果実の大きさや着色状況、青実果、病害虫被害果等を目合わせして、着色管理、適期収穫及び選果を徹底することを確認していました。

生育期間中、平年と比べて、気温が高く、降水量が少なく、7月から10月までは日照時間が少なく、りんご栽培には大変難しい環境でしたが、組合員が手間暇かけて栽培したことで、本年もおいしいりんごが収穫予定です。

当普及センターから気象概況、りんごの生育状況、今後の肥培管理、病害虫防除の反省点について情報提供し、意見交換を行いました。

当普及センターでは、今後もりんごの栽培技術について情報提供するなど支援を行っていきます。

○若手果樹生産者の共同出店活動～白石市農業祭 in ホワイトキューブ～

令和6年11月25日

大河原農業改良普及センター



令和6年11月9日(土)・10日(日)に、ホワイトキューブ(白石市文化体育活動センター)において「第44回白石市農業祭」が開催され、大河原農業改良普及センターのプロジェクト課題「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」の活動として、課題対象者のうち5名が共同出店しました。

会場では、生食用ぶどう、りんご、りんごチップス、りんごジュース、ワインの販売を行いました。また、「訳ありりんごの詰め放題」など、お祭りらしい取り組みも行い、大変好評でした。

お客様に、自身の経営についてPRする様子も見られ、今後の販売・経営にもつながる貴重な経験となったようです。また、販売の間には対象者同士で談笑する姿も見られ、本行事を通じて若手果樹農家の交流をより深めることのできた共同出店となりました。

○GI 産品とうまいものフェアに河北セリが出店！

令和6年11月25日

石巻農改良普及センター



地域の農林水産物や食品をブランドとして保護する国の「地理的表示(GI)保護制度」に登録された産品の登録団体がGI産品や地域のうまいものを販売する「GI産品とうまいものフェア」が11月1日から2日まで仙台市青葉区の百貨店前で開催されました。

当管内でGIに登録している「河北せり」も参加し、石巻農業改良普及センターも販売支援を行いました。

2日間で合計300束の河北せりを販売し、消費者に河北せりの良さである茎の長さや根の白さについて、また、河北地域の豊富な地下水で育てている栽培状況等を紹介することが出来ました。販売期間中に複数回購入に訪れる消費者もおり、「河北せり」のおいしさもお伝えすることができました。

普及センターでは今後も、石巻地域の地域資源である河北せりの振興について、生産・販売支援を行って参ります。

○JAみやぎ登米寒じめ野菜部会現地検討会が開催されました！

令和6年11月26日

登米農業改良普及センター



令和6年11月12日に、寒じめ野菜部会現地検討会が開催され、部会員7人が参加しました。

種苗メーカーの指導員及びJAみやぎ登米の担当

者とともに、ほ場を巡回し、生育状況の確認及び今後の管理について指導を行いました。

これまでの生育は順調で、昨年に比べ最低気温が低くなっており予定通りの出荷が見込まれます。また、これまでの適切な防除により病害虫の被害はごくわずかにとどまっています。

普及センターでは、今後も寒じめ野菜の安定生産を図るため、ほ場の巡回指導を通して適切な栽培管理支援を行ってまいります。

○出荷間近！いちご現地検討会開催！

令和6年11月27日

石巻農業改良普及センター



令和6年11月6日にやもといちご生産組合において、いちご現地検討会が行われました。生産者とJAいしのまき、普及センターで各戸のほ場を巡回しながら定植後のハウスの管理状況及び病害虫の発生等を確認し、今後の管理について検討を行いました。

本年作は、8月の猛暑の影響で花芽分化の遅れやバラツキ及び一部では炭疽病の発生が見られましたが、定植後は日照不足の時期があったものの10月以降は気温が高めで推移したことから生育は順調に進み、夜冷作型での収穫は11月11日から始まる見込みです。

普及センターからは、厳寒期に向けたハウス管理や病害虫防除について情報提供を行い、適切な栽培管理が行われるよう指導しました。今後も定期的な巡回指導を通じて安定生産を支援していきます。

○石巻地域加工用ばれいしょ実績検討会を開催！

令和6年11月27日

石巻農業改良普及センター



令和6年11月8日に石巻合同庁舎で「石巻地域加工用ばれいしょ実績検討会」を開催しました。当日は

カルビーポテト(株)との契約で大規模に加工用ばれいしょを栽培している農業法人5社とカルビーポテト(株)、JAいしのまきの営農担当者等が参加しました。

冒頭、普及センターから今年の実績経過やばれいしょの生育調査の結果を報告し、その後カルビーポテト(株)から今年の実績経過やばれいしょの品質等に関する情報提供がありました。

次に「ほ場準備と植え付け」、「施肥や病害虫管理」、「収穫」の3点をテーマに栽培に取り組んだ法人による情報交換を行いました。「排水対策はほ場が乾いたときに実施した方がよい」、「水稲や大豆作業の合間になんとか防除作業を調整している」、「農機メーカーから実演機としてスタブルカルチやハーベスターを借りて作業し、収量向上や作業軽減に役立った」など相互に参考となる情報が得られました。

一部の法人では出荷収量で3t/10aを超える豊作となり、特に(株)めぐいーとは10ha以上の大面積で栽培する中で約3t/10aを実現しています。

今後も解決しなければならない課題があるため、普及センターではカルビーポテト(株)やJAいしのまきと協力し、石巻地域の加工用ばれいしょ作付けの拡大と収量向上に向けた取組を推進していきます。

○枝もの用クロマツ収穫・調整作業研修会が開催されました

令和6年11月27日

登米農業改良普及センター



令和6年11月6日、南三陸町で県主催の枝もの用クロマツ収穫・出荷調製作業研修会が開催され、登米管内の生産者を含めた宮城県クロマツ研究会会員12人のほか、関係者の合計22人が参加しました。

研修会では枝もの用クロマツの生産に取り組んでいる株式会社南三陸 Pine Proの後藤敏代表取締役が講師となり、販売ルート、出荷調整施設の説明が行われました。その後は発芽率向上のコツや雑草防除など栽培管理について活発な意見交換が行われました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

- 大豆ほ場巡回指導会が開催されました
令和6年11月12日
登米農業改良普及センター



令和6年11月7日に豊里地区の令和6年産大豆ほ場巡回指導会が開催され、生産者10名が参加しました。

普及センターからは管内の生育状況と汚粒の対策などについて説明しました。特に汚粒は品質低下につながるため、青立ち株や果実がついている雑草の抜き取りを行うよう呼びかけました。その後、現地3ほ場にて、茎水分、子実水分の測定を行い、測定結果から豊里地区では11月中旬頃から刈取が始まる予定です。

普及センターでは、今後も登米管内の大豆の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

- 大豆現地検討会(収穫前)が開催されました！
令和6年11月26日
石巻農業改良普及センター



令和6年11月5日から8日まで石巻管内の各地域(河南、石巻、矢本、河北)で収穫前の大豆現地検討会が開催されました。検討会では大豆子実と茎の水分値、外観等から収穫可能か生産者にアドバイスをしました。

今年の管内の大豆は生育期間中の気温と適度な降雨に恵まれ、生育が順調で莢付きは良好でしたが、タンレイ・タチナガハで青立ちが多く、ほ場により収穫が遅くなることが見込まれます。生産者の方々は品質の良い大豆の収穫に向け、適期収穫と適切な乾燥作業について確認していました。大豆の収穫は成熟が早い品種では11月中旬から始まり、12月まで続く予定です。

当普及センターではこれからも高品質な大豆生産に向けた支援を続けていきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

- 第2回JA新みやぎあさひなまつりが開催されました
令和6年11月6日
仙台農業改良普及センター



令和6年10月27日(日)に第2回JA新みやぎあさひなまつりが開催されました。本まつりでは、仙台牛の試食販売や、生産者による野菜・きのこ類・加工品の販売、JA女性部・青年部による出店、農機具の展示などが行われ、当日は天候に恵まれて多くの人で賑わいました。

また、あさひな地区(富谷市、大和町、大郷町、大衡村)の農林産物などが一堂に会した農林産物品評会が行われ、「玄米」や特産品の「ねぎ」をはじめ、野菜、果実など108点が出品され、普及センター職員が審査を行いました。

高温等の影響により、生産者は農産物の管理に大分苦労されたようですが、出品物は揃い・品質が高く審査は難航しました。最も優秀な出品物に対して、主催者のJA新みやぎからの表彰と副賞として各市町村長賞及び仙台地方振興事務所賞が授与されました。

普及センターでは、地域農産物の生産振興・消費拡大に向けた取組を引き続き支援してまいります。

- 岩沼市の農事組合法人玉浦南部生産組合で復興支援感謝祭が開催されました

令和6年11月7日
亘理農業改良普及センター



11月4日、雲一つない晴天の下、岩沼市の農事組合法人玉浦南部生産組合による復興支援感謝祭が開催されました。昨年からはまったこの感謝祭は、玉浦南部生産組合が東日本大震災からの復興に向けて受けてきた様々な支援への感謝の気持ちを還元し、地域の元気を取り戻すために企画されたものです。

当日は午前10時の開会前から、新米やさつまいもの掘り取りを目当てに来場した地域住民などで大行列となり、先頭に並んでいたお客様に至っては、7時半に到着して開会を待っていたとのことでした。

震災から13年が経過し、被災した岩沼市沿岸部の復興も進んできましたが、これからは次の世代にとっても魅力的な地域の再生に向けて、今回のような取組が一層進むことを期待するとともに、普及センターも積極的に応援したいと考えています。

○農業講座「花苗寄せ植え体験」を開催しました 令和6年11月11日 大河原農業改良普及センター



9月18日に、柴田町立船岡中学校で花苗の寄せ植え体験を行う農業講座を開催しました。

本講座は、小・中学生に、地域の農業者との交流の機会を通して地域農業の魅力に触れ、農業への関心や地域に対する愛着を持ってもらうことで、将来の担い手確保につなげることを目的としており、今年度で3年目の取組となります。

今回は、JRC委員会（JRC：青少年赤十字）の生徒24名に、川崎町で花壇苗を生産している佐藤重喜氏が講師となり、パンジーとキンギョソウの花苗の寄せ植え指導を行いました。

生徒達は色とりどりの花苗から好みのものを選び、土の量や植え付けの深さなどのアドバイスを受けながらプランターに植え付け、最後に講師からの「合格」の声を聞くと満面の笑みを浮かべていました。校門から校舎の正面口までの通路の両脇に配置されたプランターは春まで咲き続け、生徒や来校者の目を楽しませてくれることでしょう。

○「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が開催されました 令和6年11月14日 巨理農業改良普及センター



名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局）

名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が、令和6年11月9日に開催され、普及センターは運営支援を行いました。

当日は、秋晴れの中、12家族37人の親子が、「せり」の収穫や洗浄を見学した後、洗浄・調制作業を体験しました。

また、講師を務めた生産者からは、名取市でせりが栽培された歴史や栽培の苦勞について、JA担当者からは食卓にせりが並ぶまでの流通についてパネルを使いながら説明がありました。

参加者からは「井戸水で栽培するのですか。水は冷たくないですか。」「鴨除けにネットを張るのですか。鴨の被害があるなんて初めて知りました。」などの声が聞かれ、栽培の苦勞を実感したようでした。

また、生産者からは、「『仙台せり』がGI登録を取得しました。品質に気を付けて出荷しています。鍋物などで美味しく召し上がってください。」とPRがありました。

普及センターでは、地元の農業への理解を深める取組を支援し、名取市の特産品のファンが一人でも多く増えるよう努めていきます。

○令和6年度宮城県農林産物品評会（うるち玄米）を開催しました 令和6年11月25日 農業振興課



令和6年11月14日、15日に、宮城県庁1階ロビーにて、県内農林産物の生産振興と県民の皆様にご覧いただくために農林産物品評会（うるち玄米の部）を開催しました。

県下全域から136点の玄米が出品され、その中から品質や外観が最も優れたものに農林水産大臣賞が授与されました。その他の入賞品や出品されたすべての玄米の展示を行い、県民の皆様にお披露目しました。

なお、農林水産大臣賞を受賞したエコファーム蔵王株式会社（蔵王町）は、来年秋に宮中で行われる新嘗祭で使用されるお米を宮城県を代表して献納する予定です。

〔農林水産大臣賞受賞者〕
蔵王町 エコファーム蔵王株式会社
品種：ひとめぼれ

その他の入賞者は、県のウェブページをご確認ください。

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/r4h_innpyoukai_kekka.html

○農業講座「落ち葉を使った腐葉土作り」を開催しました

令和6年11月25日

大河原農業改良普及センター



11月5日に白石市立白石南小学校・白石南中学校の授業として、腐葉土作りを体験する農業講座を開催しました。

本講座は、小・中学生が実際に土づくり等、農業に関連する作業を体験することで、農業への関心や地域に対する愛着を持ってもらうことにより、将来の地域の担い手確保につなげることを目的としています。

今回は生徒26名を対象に当農業改良普及センター職員が講師となり、学校周辺の落ち葉を使った腐葉土づくりについて説明と指導を行いました。

説明を聞いた後、生徒達は収集用の袋を持って学校周辺の野山に行き、和気あいあいと多くの落ち葉を袋に詰め、集積場所まで持ってきました。生徒達は、山盛りの落ち葉を集めたお互いの袋を見て驚き、満面の笑みを浮かべていました。その後、集まった落ち葉に分解を促進する資材と水を混ぜ合わせると、興味深そうに見入っていました。

出来た腐葉土は学校敷地内の菜園や花壇等に使用される予定とのことで、生徒達は自然の循環にも興味を持ったようでした。

○宮城県花き品評会及び宮城県農林産物品評会に入賞しました

令和6年11月28日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年11月9、10日に令和6年度宮城県花き品評会がせんだい農業園芸センターを会場に開催され、同月14、15日に令和6年度宮城県農林産物品評会(うるち玄米の部)が宮城県庁を会場に開催されました。

花き品評会には管内から切り花や鉢物が7点出品され、南三陸町の及川利恵様のスプレーギクと気仙沼市の有限会社気仙沼園芸様のシクラメンがともに銀賞に入賞されました。

また、うるち玄米の品評会には管内から5点が出品され、気仙沼市の合名会社外浦農場様が知事賞3等に入賞されました。

受賞された皆様、大変おめでとうございます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

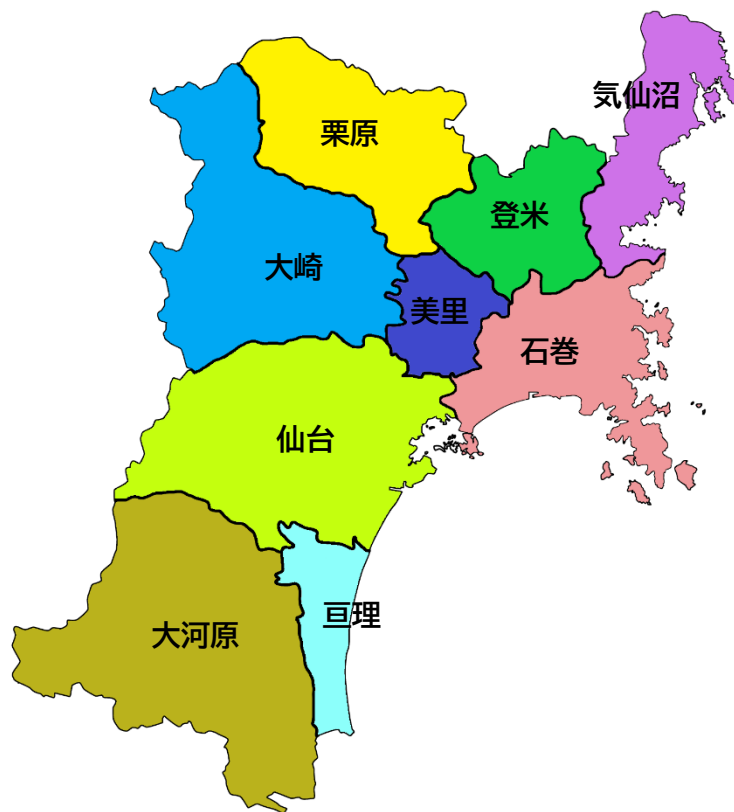
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.214

発行日:2024年12月24日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp